

当別町生涯活躍のまちづくり基本構想

平成 29 年 5 月



目次

1. 「当別町生涯活躍のまちづくり基本構想」の背景と目的	1
1.1 背景.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 本構想書の位置づけ.....	2
1.4 本構想書の構成.....	3
2. 「当別町生涯活躍のまち」の理念・コンセプト	4
2.1 当別町が進める新たなまちづくりの必要性（事業の意義）.....	4
2.2 当別町の地域資源と課題.....	4
2.3 「生涯活躍のまち」において当別町が目指すまちづくり.....	6
2.4 「当別町生涯活躍のまち」のコンセプト.....	7
2.5 「当別町生涯活躍のまち」モデル地区.....	8
3. 「当別町生涯活躍のまち」の導入機能・サービス	12
3.1 「生涯活躍のまち」の導入機能・サービスの基本的な考え方.....	12
3.2 導入機能、サービス.....	13
4. 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた事業スキーム	21
4.1 事業スキームの考え方.....	21
4.2 案①：まちづくり会社.....	21
4.3 案②：地元事業者と先進事業者支援（フランチャイズ）.....	23
4.4 事業スキームの選定における留意事項.....	24
5. 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた今後の展望、課題	25
5.1 今後の展望、取り組みのスケジュール.....	25
5.2 検討体制.....	26
5.3 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた「町の関与のあり方」.....	27

・参考図

・参考資料

1. 「当別町生涯活躍のまちづくり基本構想」の背景と目的

1.1 背景

当別町は昭和40年から人口減少傾向になり、昭和49年からは減少割合が緩やかになったものの、平成2年には約15,000人まで減少した。その後、札幌大橋完成に伴う太美地区の開発によって人口流入が進み、平成11年までに約5,000人増加して20,000人を超えたが、宅地開発が終息すると減少に転じ、平成27年10月時点での人口は17,278人となっている（平成27年国勢調査）。また、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計では、平成47年には生産年齢人口を老年人口が上回ると予測されており、今後も一層の人口減少、高齢化が進むことが想定される。

当別町は、平成27年10月に「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略～フロンティアスピリットを抱き進化を続けるまち～」(以下、総合戦略)を策定し、人口減少の克服と地方創生を実現させるために必要な施策とその方向性を整理した。総合戦略では、一定の交通インフラを有し、人口200万人を超える札幌圏域に位置しながらも豊かな自然環境があり、高品質かつ多品目の農産物が生産され、再生可能エネルギーの事業化が可能な地域資源も豊富に存在しているといった当別町のポテンシャルを生かし、地域の活性化を図るための4つの基本目標と、それぞれの目標を達成するための14の重点推進プロジェクトを設定している。総合戦略では、「基本目標(3) まちに人を呼び込む「定住・交流」の促進～人を呼び込める魅力あるまちづくりを目指して～」を達成するための重点推進プロジェクトのひとつとして「当別町生涯活躍のまちづくり」(当別町版CCRC)を位置づけており、首都圏や札幌圏に住む多彩な技能や経験を有するアクティブシニア等を受け入れ、町の活性化につなげていくための具体的な方策を検討することとしている。

(※当別町の概要については、参考資料を参照)

1.2 目的

「当別町生涯活躍のまちづくり基本構想」(以下、本構想)は、町が有する課題、総合戦略等の政策を踏まえ、魅力にあふれ、住み続けたいと思えるような当別町ならではのまちづくりのあり方を検討するためのものである。現在進められている様々な政策や取り組みを下地としながら、産官学金労言といった様々な主体が連携し、アクティブシニアをはじめとする多世代が活躍できる環境づくりに取り組むことで、「フロンティアスピリットを抱き進化を続けるまち」の実現を目指していく。

(参考)「生涯活躍のまち」の考え方

「生涯活躍のまち」は、アクティブシニア等の移住を促進することを目指すものであるが、高齢者像の考え方において従来の高齢者向け施設・住宅とは大きく異なっている。

従来の高齢者施設等は、要介護状態になってからの入所・入居の選択をできるのに対し、「生涯活躍のまち」では高齢者は健康な段階から入居し、できる限り健康長寿を目指すことを基本としている。また、従来の施設等ではサービスの受け手であった高齢者が地域の仕事や生涯学習等の社会活動に積極的に参加する主体的な存在である点にも大きな特徴がある。さらに、施設に閉じ、高齢者中心のコミュニティではなく、子どもや学生、高齢者など多世代が交流・協働しながら生活する、地域に開かれたコミュニティを目指す点においても、これまでの高齢者施策とは大きな違いがある。

図表 1- 1 従来の高齢者施設・住宅と「生涯活躍のまち」の違い

	従来の高齢者向け施設・住宅	「生涯活躍のまち」
入居時の健康状態	要介護状態になってから	健康な段階から
居住のきっかけ	健康に不安があるから	楽しみたい、社会の役に立ちたいから
コミュニティのあり方	施設に閉じ、高齢者中心のコミュニティ	地域に開かれ、多世代が交流するコミュニティ
高齢者の位置づけ	サービスを受ける人	仕事や活動に主体的に参加する人

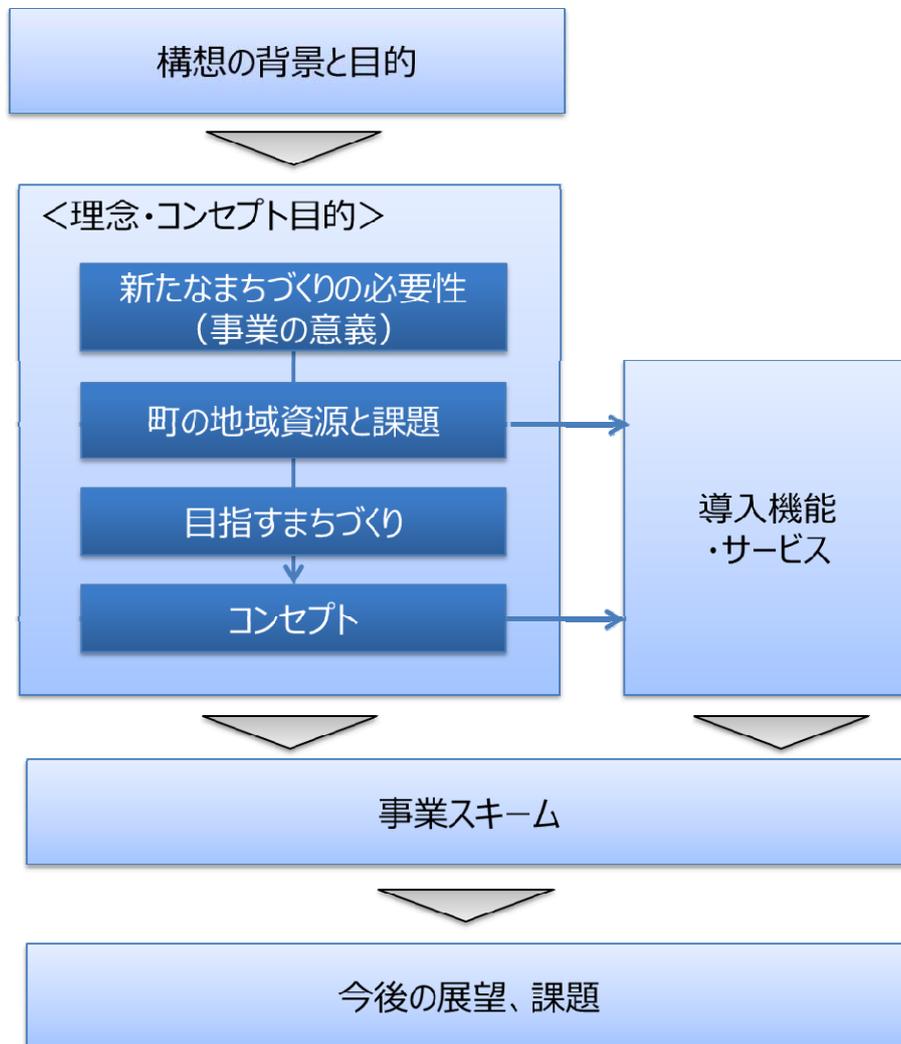
1.3 本構想書の位置づけ

本構想書は、総合戦略の下位計画とし、以下の既存の計画と連携するものとする。

- ・ 当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (出所：当別町、平成 27 年 10 月)
- ・ 当別町人口ビジョン (出所：当別町、平成 27 年 10 月)
- ・ 当別町都市計画マスタープラン改訂版 (出所：当別町、平成 24 年 4 月)
- ・ 第 3 期当別町地域福祉計画 (出所：当別町、平成 29 年 3 月)
- ・ 当別町住宅マスタープラン (出所：当別町、平成 25 年 3 月)
- ・ 当別町営住宅長寿命化計画 (出所：当別町、平成 25 年 3 月)
- ・ 第 4 次生涯学習推進計画 (出所：当別町教育委員会、平成 26 年 3 月)

1.4 本構想書の構成

本構想書は以下の構成に従う。



2. 「当別町生涯活躍のまち」の理念・コンセプト

2.1 当別町が進める新たなまちづくりの必要性(事業の意義)

当別町が今後のまちづくりを進める上で、人口減少や高齢化といった大きな課題を抱える一方で、町にはスウェーデンヒルズが実現させた「移住者の町」の実績や、札幌圏への近接性という他の自治体にはない大きな特性を有する。この特性を活かした新たなまちづくりの視点として、①定住促進（人口流出の防止）、②高齢化しても健康で長生きを続けられる環境整備、③近隣からの住み替えも含む移住者の更なる獲得、の3点が重要であり、これを実現するには「生涯活躍のまち」構想に取り組むことが、今後のまちづくりとして有効な方法と考えられる。

当別町にて「生涯活躍のまち」が実現することによる効果は、

- やりがいある活躍を求めるアクティブシニアの転入増加
- 雇用拡大による若者世代の流出抑制と多世代交流による定住促進
- いきがい・やりがいある活躍による健康維持増進
- 地域包括ケアシステム整備促進
- 健康寿命延伸の取り組み進展
- 移住者の活躍を通じたまちづくりなど地域課題の解決
- アクティブシニアの消費活動による経済波及効果、町財政への貢献

等が期待される。

2.2 当別町の地域資源と課題

生涯活躍のまちづくりを進めるにあたり、地域資源と関連する課題について以下に整理した。

(1) 地域資源の可能性

当別町は札幌市に隣接した通勤・通学環境、自然豊かな環境での子育て、先進的な福祉・介護の取り組み、開発可能性のある駅前用地といったポテンシャルを持つ。

- ◆ 当別町は札幌圏と近接しており、また道内有数の輸送密度を誇るJR 学園都市線（札沼線）が通る等、交通アクセスにおいて優位性を持つ。
- ◆ 都心の利便性を享受しながら、自然の豊かさを実感することのできる居住環境を有している。
- ◆ 札幌市と比較し土地が安価である。
- ◆ 社会福祉法人との地域連携による多世代共生コミュニティが形成されている。特に、地元密着で活動の幅を広げる福祉団体が複数あり、地域包括ケアシステムの基礎が充実している。

- 地域住民が可能な限り、住み慣れた地域で生活を続けられるよう、地域包括支援センターが中心となり、医療、介護、予防、住まい、生活支援に関するサービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向け取り組んでいる。
- ◆ 当別町との包括連携推進に関する協定を締結している北海道医療大学がある。医療・福祉に関する未活用の人材・資産を保有する。
- ◆ 当別町の基幹産業は農業であり、「守備範囲の広い農業」として多品目の農作物を生産していることが強みであり、特に、花きは道内でも有数の出荷数量を誇る。
- ◆ 太美地区には良好な住環境が形成されているスウェーデンヒルズ地区が整備されており、全国から移住者を受け入れている。



当別町の田園風景



北海道医療大学

(2) 課題

町全体として、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、飲食店等の生活利便施設や医療施設の不足、賑わいの不足など、居住環境としての魅力を高めるための課題がある。

- ◆ 太美地区は商業店舗や飲食店舗などの生活利便施設が少なく賑わいが乏しい。札幌市への近接性にもかかわらず、住宅開発が進まないため、現在低・未利用となっている地域が残る。
- ◆ 福祉施設は充実しているが医療施設が少なく、在宅医療及び終末医療については、医療関係者・事業者の担い手が不足している。
- ◆ 当別町には賃貸住宅が少なく、学生の一人暮らしや単身高齢者の生活利便性が劣る。特に、学生のアルバイト先が少なく、札幌市への居住が優先される。
- ◆ 中心市街地である本町エリアに比較し、太美地区は賑わいが乏しい。
- ◆ 豪雪地帯であり、首都圏からの移住候補者にとっては、冬の生活に不安を抱きがち。
- ◆ 北海道内の他自治体に比べ、全国的な知名度に劣る（生チョコレートで全国的に有名な「ロイズ」の製造工場を有しているが、知名度を生かし切れていない）。

(3) 課題解決により期待できる具体的な効果

町が抱える課題を「新たなまちづくりの機会」として捉え、町が有するポテンシャルを有効活用し、「生涯活躍のまちづくり」というアクティブシニアの転入を促進するための取り組みを進めることで、誰にとっても安心して暮らし続けられる環境の実現が期待される。

そこで、まずはまちづくりの方向性を整理するとともに、効果を最大限に引き出すためのコンセプトを検討する。

2.3 「生涯活躍のまち」において当別町が目指すまちづくり

首都圏をはじめとする多くの人に当別町の魅力を広くアピールし当別町への移住促進を図るとともに、現在居住している住民が当別町に住み続けたいと実感できるような、“まちづくり”及び“地域再生”を目指す。

具体的に目指す姿を以下のとおり、3つの視点で整理した。

(1) 当別町西部地区のまちづくり

西部地区は、太美地区を含むエリアを指す（北から順に、スウェーデンヒルズ地区、石狩太美駅、国道337号線までに至る地域の総称）。この地区は、札幌市に一番近接している地域でありながら、低・未利用地が残り、商業施設や医療施設が不足するなど、既存居住者にとっては、居住環境としての利便性が必ずしも高くなく、本町市街地と比較して賑わいが不足している。

そこで、札幌市に隣接するメリットを最大限に活かした、居住環境の向上を図るまちの構築を目指す。例えば、石狩太美駅周辺には、未利用の町有地が存在しており、今後、こうした場所での土地利用の高度化、地域の拠点となるような商業等の複合機能を有する施設の整備等に取り組むこととされる。

地域開発を一つのきっかけとしながら、住みやすく、魅力的なまちづくりの実現に向けて、まずは、開発の効果を最大限に引き出すための事業スキーム、駅周辺を中心とするにぎわいの創出、新たな雇用の創出や子育て・居住環境の向上、地域コミュニティの活性化につなげていくためのまちづくりを目指す。

(2) 多世代共生のまちづくり

多世代共生のまちづくり実現に向けて、既に西部地区で地元社会福祉法人が取り組みを進めている「共生型コミュニティー農園」等の多世代共生の交流拠点を起点に、移住者と地元住民の交流と生きがいを創造するまちの構築を目指す。

具体的には、札幌圏との近接性を生かし、周辺地域からの住み替えの促進も念頭に置きながら、子育てのしやすい環境整備を進めることで、多彩な技能や経験を有するアクティブシニアに加え、若年世代を呼び込む仕組みによって、シニア、子育て層の定住促進や学生等の若年層の町内居住促進を図り、多様な世代が交流する仕組みを設けることで、ともに支え合う共生型の地域づくりを推進する。

(3) 生涯安心して健康に暮らせるまちづくり

移住者や地域住民が健康で安心して生涯暮らせるために、医療（在宅医療・終末医療も含む）、介護、予防、住まい、生活支援に関するサービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築と環境づくりを目指す。

当別町では「地域包括ケアシステム」を単に高齢者問題を解決する仕組みとしてではなく、高齢、障がい、生活困窮、こどもといった町全体の福祉に関する諸問題を包括的にとらえ、解決に導く仕組みづくりを検討している。また、当別町には、医療・福祉系大学の教育機関に加え、地元密着で活動の幅を広げる福祉団体が複数あり、地域包括ケアシステムの基礎が充実している。

このことを踏まえ、既存の施策とも連携を図り、地域の医療・福祉サービスの一層の底上げと、安心して暮らし続けられる環境づくりを推進する。

2.4 「当別町生涯活躍のまち」のコンセプト

これまでの検討を踏まえ、当別町では、「多世代共生・参加型のまちづくり～当別町生涯活躍のまち～」（副タイトル：「太美地区の低・未利用地活用と官民連携による生涯活躍のまち」）を基本コンセプトとする。

以下に、「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた考え方や、活用する地域資源やターゲットを示す。

(1) コンセプトの基本的な考え方

当別町では、都市機能と自然環境の豊かさを享受できるといった首都圏のアクティブシニアにとって魅力的な住環境を有すること、地域密着により活動の幅を広げる福祉団体や医療・福祉系大学があり福祉・医療の資源が発展していること、JR 学園都市線（札沼線）石狩太美駅周辺地区には未利用地が残るハード的な計画が立てやすいといった資質を備える点に着目する。

(2) 活用する主な地域資源（ポテンシャル）

主に以下の地域資源を活用する。

- ◆ 札幌圏への交通アクセスに優れた立地と地域の顔にもなる駅周辺地区。
 - 札幌から電車で約30分程度と至近。アクセスが良いにも関わらず、地価が安価で低・未利用地の活用も検討できる。
 - 駅前を活用することで、移住者を中心として入居者とその家族にとって居住するメリットの大きい「エリア型生涯活躍のまち」を提供することができる。
- ◆ 地域密着で事業を行う福祉事業者や北海道医療大学をはじめとした医療・福祉分野における先進的な取り組みと、地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み。
 - 多世代共生を目指す活動、健康長寿を実現する健康づくり・予防介護、生涯活躍プログラム

を提供することが可能。

- ◆ 都市近接型でありながら、北海道ならではの広大で豊かな自然環境。
 - 多種多様なシニアニーズに答える住環境を実現可能。

(3) ターゲット

首都圏アクティブシニアの移住をメインとしながら、学生の町内居住を促進し、近隣市町からの子育て世代の住み替えも含めた多世代を対象とする。

2.5 「当別町生涯活躍のまち」モデル地区

2.4 節で示したコンセプトや地域資源を活用するためには、特定の地域（エリア型）で事業を展開することが有用と考える。そこで、ある特定のエリアで、周辺地域との連携やまちの活性化を先行的に実施するにあたり、いくつか候補地を比較・選定した。

(1) モデル地区の候補地

石狩太美地区を事業対象地域とした場合、具体的なモデル地区としては、暮らすうえで必要となるインフラ等の条件が整っている1.石狩太美駅周辺地区、2.獅子内地区、3.スウェーデンヒルズ地区が考えられる。以下にその特徴を示す。

図表 2- 1 モデル地区の特徴

モデル地区候補	特徴
1. 石狩太美駅周辺地区	比較的生活利便施設が集約している 福祉施設や温泉施設が近傍にあり、未利用の町有地がある
2. 獅子内地区	未開発の住宅造成地が残り、戸建て住宅を整備しやすい 住宅造成地のほかに、家庭菜園より少し大きなエリアで野菜等を育てながら生活することができる
3. スウェーデンヒルズ地区	スウェーデンの北欧型建築の家が建ち並ぶ住宅地 道外からの移住者が多い

交通利便性や住環境等の分析結果（次ページ参照）を踏まえると、2.獅子内地区は徒歩圏内に商業施設等がなく、シニアを対象とした場合、他のエリアと比較して生活利便性が劣ること、3.スウェーデンヒルズ地区は、移住者を受け入れやすい環境は整っているが、既存の民間事業者が主導で宅地分譲を進めている地域であり、他の事業者が主体となってまちづくりを行うことは、難しいといった課題がある。

それに対し、1.石狩太美駅周辺地区は、生活利便施設が3地区の中では比較的集約しており、将来的に求められる介護福祉サービスの拠点や、札幌圏までの近接性をPRすることが可能なことから、「当別町生涯活躍のまち」としては、まずは1.石狩太美駅周辺地区から優先的に事業を進めることが望ましいと考える。



石狩太美駅



スウェーデンヒルズ

(参考) モデル地区候補の比較

図表 2- 2 各地区比較分析

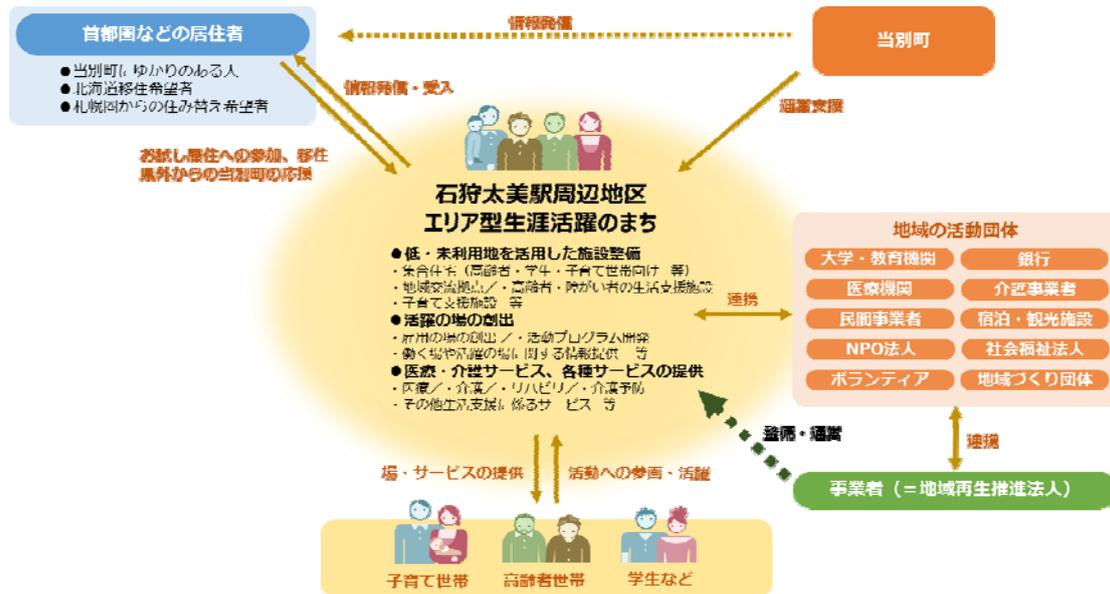
項目	石狩太美駅周辺地区	獅子内地区	スウェーデンヒルズ地区
土地利用状況	<p><土地利用状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太美町：駅南側のエリアに未利用宅地が多い <p><建物用途></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺に運輸・倉庫施設がみられる 	<p><土地利用状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築敷地より未利用宅地が多く、農地が広い面積を占めている <p><建物用途></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大半が戸建住宅である 	<p><土地利用状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東側・中央部に比べて、西側は未利用宅地が多い <p><建物用途></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大半が戸建住宅で、業務施設や店舗併用住宅が点在
生活利便施設の立地状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活利便施設のほとんどは、駅北側の石狩太美エリアに立地 ・ 役場太美出張所が、JR 石狩太美駅近くの郵便局内にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活利便施設のほとんどは、太美駅北側の石狩太美エリアに立地 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活利便施設のほとんどは、太美駅北側の石狩太美エリアに立地
交通網	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通は、JR 学園都市線（札幌へのアクセス） ・ JR 学園都市線は、1 日当たり上り 39 本、下り 38 本 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいバス・あいの里金沢線（町内施設等へのアクセス）がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいバス・あいの里金沢線（町内施設等へのアクセス）がある
暮らしやすさ（アンケート調査より）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太美市街地・スウェーデンヒルズで共通して「買い物・娯楽環境が不十分」「バス・JR などの交通の便が悪い」「医療・福祉サービスが不十分」が多い 		<ul style="list-style-type: none"> ・ スウェーデンヒルズでは、「教育・文化・スポーツ施設が不十分」が多い

(2) 「当別町生涯活躍のまち」の展開イメージ

石狩太美駅周辺地区は、(1)で整理した点を踏まえ、集合住宅、地域交流拠点、高齢者や障がい者向けの生活支援、子育て支援施設などの整備を行う、「エリア型の生涯活躍のまち」を展開する。

具体的なイメージとしては、地域再生推進法人（事業者）とその他の当別町内の福祉事業者や地域活動団体との連携により、当別町の情報発信がきっかけで移住してきた移住者に活躍できる場を提供することで、地域住民への利便性向上を図るサービスを提供する。

図表 2- 3 「当別町生涯活躍のまち」の展開イメージ



3. 「当別町生涯活躍のまち」の導入機能・サービス

「生涯活躍のまち」の基本的な考え方を踏まえ、「当別町生涯活躍のまち」に導入する機能やサービスを以下に示す。

3.1 「生涯活躍のまち」の導入機能・サービスの基本的な考え方

「生涯活躍のまち」は、アクティブシニア等の移住を促進することを目指すものであり、サービス付き高齢者向け住宅が備える居住機能や健康・医療・介護機能に、コミュニティ機能、社会参加機能、多世代共創機能等を加えて、それらの機能をマネジメントする視点が備わっていることが求められる。

図表 3- 1 「生涯活躍のまち」において備えられるべき機能のイメージ



3.2 導入機能、サービス

(1) 移住者・入居者

「当別町生涯活躍のまち」では、アクティブシニア（移住者）、札幌市・近隣市町からの住み替えにより移住してきた子育て世代、医療・福祉サービスへの従事経験を持つ人、大学生を主対象とすることとし、移住者像のイメージとしては、図表 3- 2 のとおり。

アクティブシニアに関しては、対象年齢を 60 歳以上のうち、65-75 歳の健康な方をメインターゲットとする。所得水準は、定年まで勤め上げた方で、平均的な年収を得ている方とする。移住元は、首都圏在住の方あるいは、道内地方部に在住する方を対象とする。

移住者規模は、【200】名とし、段階的に移住者を獲得することを想定している。

当別町の既存住民の住み替え、札幌市・近隣市からのアクティブシニアの転居についても、移住政策やまちづくりの一貫として、ターゲットの対象とする。

図表 3- 2 具体的な移住者像（イメージ）

ターゲット	移住者像
アクティブシニア （主ターゲット）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間に余裕があり、人生を楽しみたい 60 歳以上で健康なシニア ・ 特にウインタースポーツやレジャー（ゴルフ等）を楽しみたい ・ 当別町や札幌市に赴任経験のあるリタイアしたサラリーマン ・ 地域の課題を解決するために自分の知識や経験を活かしたい ・ 特に、町や地元団体が進める観光やまちづくりの取り組みに係わりたい方 ・ 農業や家庭菜園をやりたい ・ 幻想的な雪の環境に魅力を感じる ・ 札幌市内に勤務する現役世代の両親（呼び寄せ） ・ 北海道医療大学 OB、OG
子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境が豊かな場所で子育てしたいと考える 20 代後半、30 代、40 代前半の子育て家族 ・ 夫婦のどちらかが、当別町出身あるいは、近隣に親戚が暮らしている ・ 子供に農業等の体験や国際交流に積極的に参加させたいと考えている方 ・ 小中一貫の教育を受けることができ、自然体験学習などを考えている方 ・ 地域で活躍したい 30 歳、40 歳代の若手世代のお試し居住や移住支援も積極的に推進
医療福祉従事者 OB	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定年前に離職した 40 代後半～50 代の医療福祉有資格者 ・ 医療福祉関係に再就職するつもりであるため、就職先には不安を感じていない ・ 専門家の視点で、生涯活躍のまちの理念に共感をもつ方、実践したい方
大学生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道医療大学等に通う学生 ・ 首都圏、札幌市内、北海道内から一時的に居住 ・ 将来就職することを見据え、ボランティア等の活動に積極的に参加する方 ・ 地域町おこし活動に積極的に参加、PR できる方 ・ ウインタースポーツやレジャー（ゴルフ等）が得意なため、この特技を活かし、生活費や交遊費を稼ぎたい

(2) 立地・居住環境

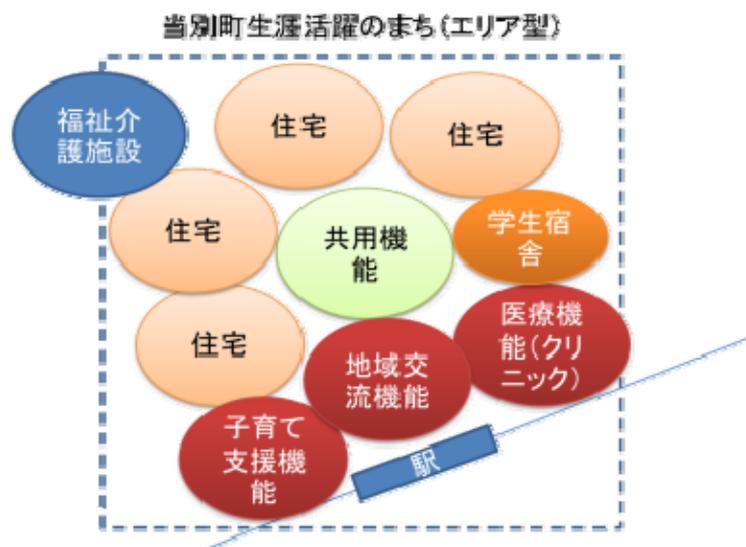
「当別町生涯活躍のまち」の立地環境を整備するにあたり、図表 3- 4 のとおり、札幌市内までの交通アクセスに優れた拠点や、学生やシニア・移住者向けの住宅に加えて、多世代交流のためのコミュニティ拠点、医療や介護サービスの拠点を整備する必要がある。また、駅前には町の顔であり、駅前開発が地域の活性化のきっかけにもなり得るほか、道の駅との連携も検討する必要がある。そこで、まずは石狩太美駅周辺を整備し、住宅とコミュニティスペースが 1 セットとなった「まち」を段階的に形成する。

形成するにあたり、整備が必要な要件は、図表 3- 3 のとおり。

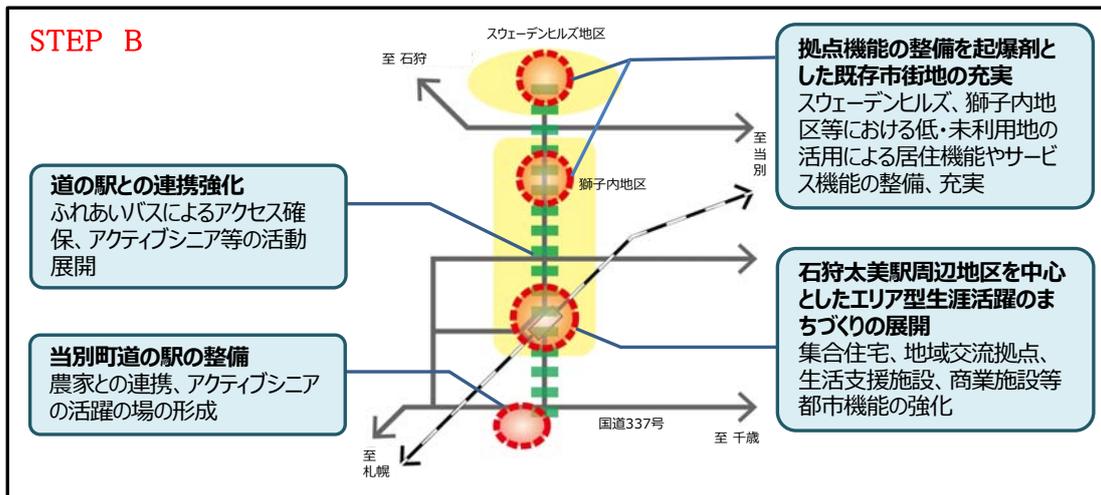
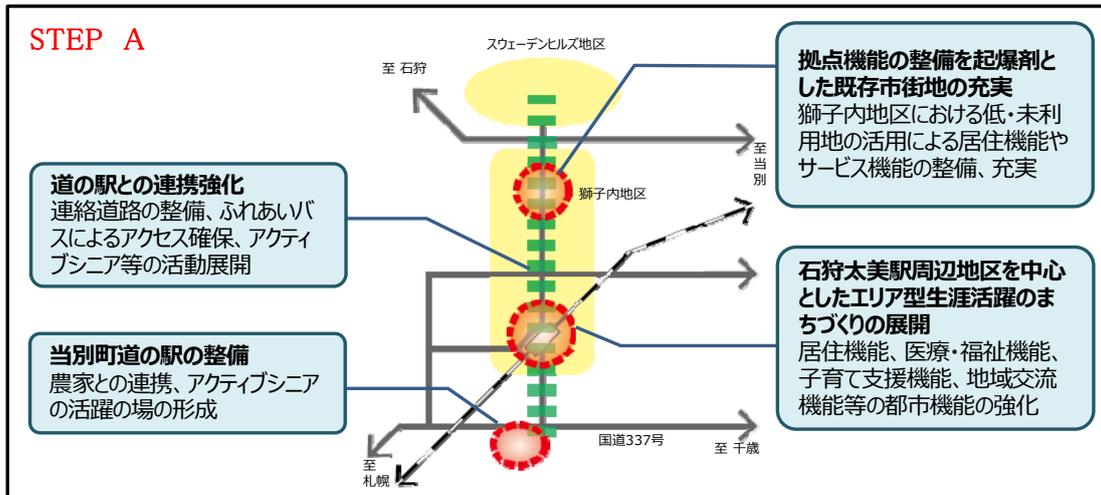
図表 3- 3 立地環境と整備が必要な要件

立地環境	整備が必要な要件
石狩太美駅周辺でのエリア型事業を実施する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居機能は、サービス付き高齢者向け住宅、一般住宅の混合タイプとする ・ 石狩太美駅までのアクセスを確保する ・ 町有地を活用する ・ 医療や介護サービスの機能を持つ施設を整備又は誘致する（事業展開先には、当該拠点からサービスを提供する）
事業展開の一つの事例（ステップ A）では、スウェーデンヒルズから太美町市街地を含み、国道 337 号道の駅までを含む区域にて、事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭菜園付きテラスハウスを中心とした街区を形成する ・ 住居機能は、サービス付き高齢者向け住宅、一般住宅の混合タイプとする
事業展開の一つの事例（ステップ B）では、スウェーデンヒルズ街区にて、事業を実施する（当該地区に進出している民間事業者の主導を想定する）	<ul style="list-style-type: none"> ・ スウェーデンヒルズ街区内での集合住宅を整備する ・ 住居機能は、サービス付き高齢者向け住宅タイプとする

図表 3- 4 各機能配置イメージ



図表 3- 5 事業展開の事例（A ステップ、B ステップ）



「当別町生涯活躍のまち」の居住環境を整備する際は、質の高い個室空間と集住機能の組み合わせや、地域社会交流・協働、コーディネーターの配置、地域包括ケアシステムとの補完関係において、図表 3- 6 の要件を整備していく。

図表 3- 6 居住環境と整備が必要な要件

居住環境	整備が必要な要件
質の高い個室空間と集住機能の組み合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居は、介護支援が必要となった場合でも、自立した生活が送れるような質の高い空間を用意する（例：一般的サ高住より広い居室、施設ではなく住居としてのしつらえ、浴室・トイレでの介助スペースの確保等） ・ 雪の季節は室内で過ごす時間が長くなることに配慮する ・ 単なる賃貸住宅ではなく、集住することのメリットを具現化する共用施設・設備を設ける
地域社会交流・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元住民や子ども・若者などの多世代と交流・協働する「オープン型」の居住を基本とする ・ ソフト、ハード計画ともに、地域に開かれた機能を有するものとする ・ 交流をサポートするための人材（コーディネータ）を配置する ・ 子育て世代、学生が、移住者であるアクティブシニアをサポートする仕組み（ボランティアポイント等）を設ける ・ 子育て世代が近居することから、こどもの遊び場、託児所等（「エリア型」の中に設置）での有償ボランティアを実施できるようにする
コーディネーターの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者及び周辺地域に居住する住民に対して、生きがいづくりや、活躍の場を提供するための活動を行う ・ 具体的には、健康維持のためのプログラム、ボランティア活動・地域貢献活動、生涯学習等への参加機会について情報を収集し、これを移住者や地域住民に対して積極的に提供することをミッションとしたコーディネーターを配置する
地域包括ケアシステムとの補完関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太美地区では、介護に関する在宅サービス、施設サービスは充実している。一方、総合医、在宅医療、健康づくり拠点（民間フィットネスクラブ等）は不足している ・ 生涯活躍のまちでは、健康づくり・クリニック機能を整備し、地域包括ケアシステムを補強する



自然環境に溶け込む居住環境のイメージ（当別町優良田園住宅）

立地や居住環境で記載した機能を整備し、具体化した際の参考イメージは、図表 3- 7 のとおりである。

図表 3- 7 拠点と施設要件（参考イメージ）

拠点		施設要件
住居機能	サービス付き高齢者向け住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夫婦 2 人での居住が可能な集合住宅型 ・ 延床面積 40 m²以上 ・ 小型キッチン、独立型バス・トイレ ・ 24 時間見守りサービス ・ 緊急通報サービス
	一般住宅タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族世帯での居住が可能なテラスハウス型 ・ 延床面積 60 m²以上 ・ リビング、寝室、子供部屋
	学生ワンルームタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の居住が可能な集合住宅型 ・ 延床面積 25 m²以上 ・ 学習や交流を図る共用ルーム
センターハウス （入居者用の共用施設）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 共用キッチン、ダイニング ・ レストラン・カフェサロン（外部利用者も活用可能） ・ 談話室 ・ 健康クリニック診察室（連携先医療機関のサテライト） ・ 運動スペース（機能回復訓練室） ・ 管理室
地域コミュニティ機能 （地域交流拠点）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域開放型のコミュニティスペース <ul style="list-style-type: none"> ➢ ライブラリー ➢ 園芸・農作物スペース：共同型／個人所有型 ➢ 音楽室 ➢ 陶芸・工作スペース ➢ フィットネス用スペース ➢ 子育て世代用向けの子供の遊び場、託児所 ・ 小規模物販店（石狩太美駅周辺のコンビニエンスストアのサテライト店舗） ・ ゲストルーム兼静養室（外部者の宿泊可能なもの）

(3) サービス提供

「当別町生涯活躍のまち」では、移住者だけでなく、現在当別町に居住する住民、学生等、それぞれが主体的に関わり、また取り組みによるメリットを享受できるような「生涯活躍のまち」のあり方を目指す。そこで、以下の環境を提供し、メリットが享受できる場を提供する。

- ◆ いつまでも元気で健康でいられる、充実した生活環境の提供。
- ◆ 「いざ」というときのケア環境、最終的な「看取り」ができる環境の提供。
- ◆ 地域住民、子育て世代、障がい者など、多様な人との交流をかなえるコミュニティの実現。
 - 北海道医療大学が主導し、全面的に生涯活躍プログラムを提供。
 - 生涯活躍のプログラムでは、当別町を特徴づける農産物・食と健康づくりをテーマのひとつに据える。
- ◆ 多世代交流を念頭に、充実した子育て・教育環境の整備。
 - 小中一貫教育を地域全体で進めるため、コミュニティ・スクールによる地域とともにある学校づくりを補完する環境の提供。
- ◆ 駅前の商業等の複合機能を有する施設整備を通じた暮らしやすい環境の提供。

サービスの提供に関しては、既存にあるサービスを積極的に活用するが、不足するサービスについては、生涯活躍のまちを運営する事業者（運営推進法人）が中心となって、サービスを新規に提供することとする。

また、北海道医療大学の学生やボランティア制度等と連携し、移住者がボランティア活動にも参加することで、地域コミュニティの形成に貢献する。

サービスやプログラムの具体的な提供方法は、図表 3- 8 のとおり。

図表 3- 8 サービスの提供方法（医療・介護サービス、社会活動、就労環境、生涯学習）

提供方法	提供するサービス
医療・介護のサービスの提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ・連携する既存の医療機関、介護福祉施設等のサービスを提供する <ul style="list-style-type: none"> ➢ 入院治療：札幌市、江別市内の急性期病院 ➢ 定期的な外来診療：地元医療機関の活用等 ➢ 在宅医療と介護連携：地域包括支援センター ➢ 在宅介護：デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ ➢ 施設入所：特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホーム ・事業者が新たに誘致する又は独自設置を行い、医療・介護機能のサービスを提供する <ul style="list-style-type: none"> ➢ 日常の外来診療、健康維持：内科系総合医クリニックの設置（連携医療機関の出先クリニック）
健康づくり、介護予防の実践方法	<ul style="list-style-type: none"> ・既存資源（ホーストレック、ゴルフ、パークゴルフ）を活用した健康づくりプログラム ・健康フィットネス教室 ・体育会・文化部等のサークル活動 ・豊かな自然景観を巡るトレッキング、サイクリング、ランニングプログラム ・当別町農業活動体験（家庭菜園の栽培・販売、農業活動） ・北海道医療大学における新規の健康維持増進プログラム ・ショートトリップウェルネスプログラム ・当別町による健康づくり・介護予防事業 ・地域福祉団体における健康づくり・介護予防の取り組み
社会活動、地域参画の具体的方法	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの交流・教育支援 ・コミュニティ・スクール等への参画 ・当別町観光開発支援事業の参加 ・道の駅運営参加 ・各ボランティア団体への参加 ・NPO 等への参加 ・まちづくりワークショップ等への参加、町内事業者へのビジネス支援等（現役時代に培った知見・経験・人脈を、まちづくり、産業振興等に活用）
生涯学習、余暇・趣味の実践方法	<ul style="list-style-type: none"> ・当別町高齢者学園「ことぶき大学」における新プログラム ・体育会・文化部等のサークル活動（再掲） ・CCRC 居住者を講師とした生涯学習講座の開催 ・北欧デザイン、食文化を学ぶ会 ・公民館等で開催される各サークル活動への参加 ・当別町－北海道医療大学 連携講座における新プログラム
就労環境の提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者に対し、職業紹介や斡旋を行う事を目的とはしないが、町内有力企業が雇用面で協力連携することや、農業分野では町が積極的に地元農家を紹介等をする
お試し宿泊・移住	<ul style="list-style-type: none"> ・当別町の現行の施策を拡大する形で実施する ・事業者は場所の提供を行う

(4) 事業運営

前述の事業を実施するため、アクティブシニア等の移住を促進し、町内に定住し活躍することで、地元経済を活性化し、既存住民にとっても暮らしやすい生活環境作りの実現を目指す。

具体的には、それぞれが主体的に関わり、また取り組みによるメリットを享受できるような「生涯活躍のまち」を実現するための取り組みシナリオを検討する。

1) 入居者が参加する運営会議

入居者は、サービスを受ける立場だけではなく、自らが、生涯活躍のまちの運営に参加していく。そのため、事業者は経営状況を開示するとともに、運営に関する協議会を設ける。

2) 学生や地域住民の参加

学生に、アクティブシニアや地域の方との交流活動、ボランティア活動への取り組みを学校の単位として認定することで、取り組みに参画するインセンティブを付与する等のプログラムを検討する。

また、地域住民に対しては、生涯活躍のまちの共用施設を利用することが可能となる代わりに、ボランティア活動の参加を促す。

3) 地元の雇用

事業を運営するスタッフは、地元住民とし、地域コーディネーターに関しては、経験豊かな人材を登用する。当別町は、地元企業の発掘、紹介を行う。

4) 事業収入

本事業は、入居者からの適切な利用料金をもって実施する。

4. 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた事業スキーム

4.1 事業スキームの考え方

事業の進め方としては、地元関係団体による官民連携が重要となっているが、先行事例からみる生涯活躍のまちの事業推進では、以下のような事業者や事業体がみられる。

図表 4- 1 事業運営のケース

分類	ケース	内容	備考
単独事業者による運営	地元の意欲的な事業者 (後述の案②)	地元で経営基盤があり、複数機能を担う事業体制が整っている事業者が運営する	モデル例：「シェア金沢」佛子園、「オークフィールド八幡平」(株) アーバイン・ケア・クリエイティブ
	先進的事業者の誘致	先進的なノウハウを有する事業者が地域外から進出する	モデル例：「ゆいま〜るシリーズ」(株)コミュニティネット
複数の事業者による運営	コンソーシアム型	地元や地元外の異業種の事業者にてグループをつくり、それぞれの役割分担のもと事業を推進する	事業公募案件で多く検討されている
	まちづくり会社 (後述の案①)	地元の複数の企業や自治体自らが出資した新会社が、事業推進者となる	モデル例：雫石市「(株)コミュニティライフ」

本町の限りある地域資源（リソース）による事業推進を念頭にすると、「地元の意欲的な事業者」と「まちづくり会社」の事業推進体制が有力である。また、生涯活躍のまちに初めて取り組む事業者にとっては、如何に運営ノウハウを学び・蓄積できるかが課題となるため、その場合は、先進的事業者のサポートを受け、事業を進めることが考えられる。

以上をもとに、本構想のコンセプトを実現する事業スキームとして、①まちづくり会社案、②地元の意欲的な事業者が中心となって進めるが、先進的事業者の支援を受ける案（フランチャイズ型）、の2案を想定する。

それぞれのパターンについて、事業スキームの概要を整理する。

4.2 案①：まちづくり会社

(1) 事業主体

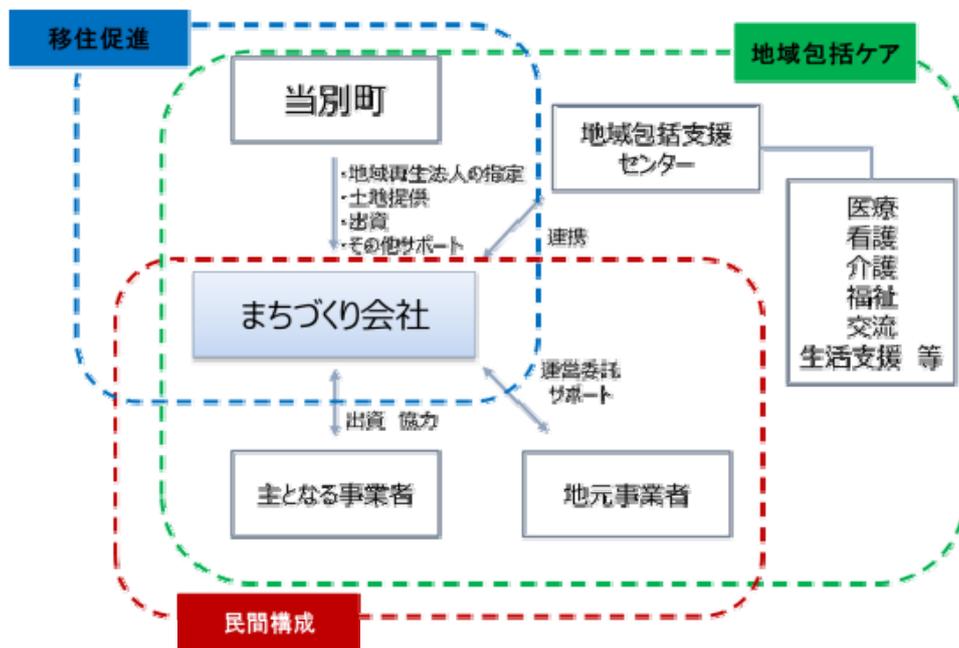
- ◆ 民間主導で事業を進める株式会社を新たに設立し、生涯活躍のまちの事業主体となる。

- ◆ まちづくり会社には、介護事業者、保健事業者、建設事業者、福祉事業者、不動産事業者、大学等が出資することが考えられる。

(2) 事業スキーム

まちづくり会社と各関係者との構成は以下のとおり。

図表 4- 2 まちづくり会社の体制イメージ（仮）



(3) 当別町が果たす役割

- ◆ 町は、地域再生推進法人の指定のほか、公有地の提供や出資などによりサポートする。
- ◆ 移住促進は、町と事業者が協力して行う。
- ◆ 町は、複数の企業をまとめ、調整することが重要な役割となる。

(4) 特徴

- ◆ 地域再生事業の中では比較的事例が多く、生涯活躍のまちの事業においても検討が進む事例がある。
- ◆ 町が参画する場合は、公共的な意味づけを付けやすい（公有地を利用する等）。
- ◆ 新たに株式会社を立ち上げるため、コストや事務の手間がある。
- ◆ 複数の企業が参加するため、調整に時間を要する。

4.3 案②：地元事業者と先進事業者支援(フランチャイズ)

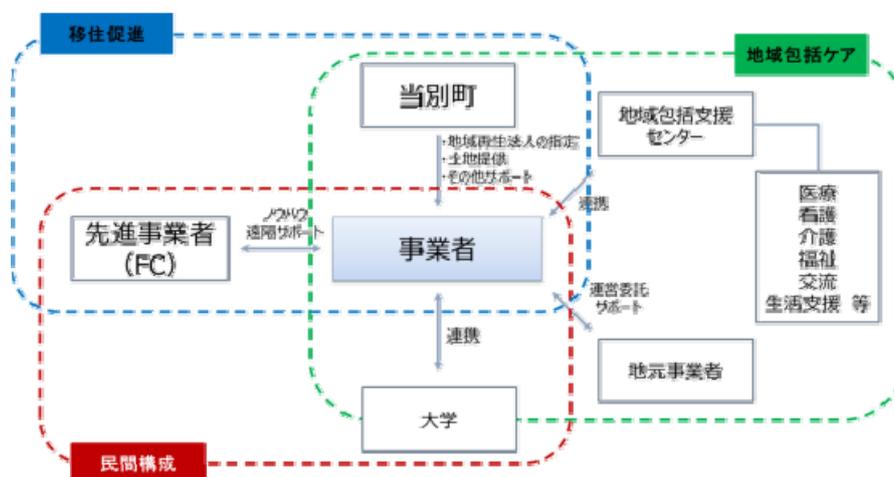
(1) 事業主体

- ◆ 高齢者住宅運営の実績やノウハウをもつ先進事業者（フランチャイズ事業部）から運営等のノウハウを得た事業者が、生涯活躍のまちの事業主体となる。
- ◆ 事業者は、地元に密着する事業者に期待される。

(2) 事業スキーム

中心的な事業者と各関係者との構成は以下のとおり。

図表 4- 3 地元事業者と先進事業者支援の体制イメージ（仮）



(3) 当別町が果たす役割

- ◆ 町は、中心となる事業者を選定する。選定の方法は町の公募又は事業者からの独自提案が考えられる。
- ◆ 先進事業者と地元事業者のマッチングを行う。
- ◆ 移住促進は、町と事業者が協力して行う。

(4) 特徴

- ◆ 地元主導で事業ができる。
- ◆ 先進のノウハウが得られるため、地元事業者の参入が図りやすい。
- ◆ 中心となる会社が主体となって事業運営が可能。
- ◆ 具体的な事例はまだみられないが、検討を進める自治体はあり。

4.4 事業スキームの選定についての留意事項

まちづくり会社の場合でも、生涯活躍のまちを実現するためには運営ノウハウの確保が必要となるため、まちづくり会社型とフランチャイズ型の組み合わせパターンも考えられる。また、町の関与や役割をより高めることができれば、経験のない地元事業者単独でも事業主体となって進め、町のサポートを受け、他の医療や介護事業者などと連携して運営をしていくことも選択肢の一つと考えられる。

今後は、事業者に対する事業参画意向調査等を実施し、実現可能性を踏まえた推進体制を見極め、事業スキームを選定する。

5. 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた今後の展望、課題

5.1 今後の展望、取り組みのスケジュール

最速での事業スケジュールでは、以下のとおりを予定する。

- ・ 町は、平成 28 年度、平成 29 年度にて、基本計画の立案を実施する。
- ・ 事業者は、平成 30 年度より事業参入を決定し、平成 31 年度の後半からまちの設計をスタートさせる。それに先立ち、町と協働して移住者の募集活動を行う。
- ・ 平成 33 年度中に事業運営開始。

図表 5- 1 事業スケジュール

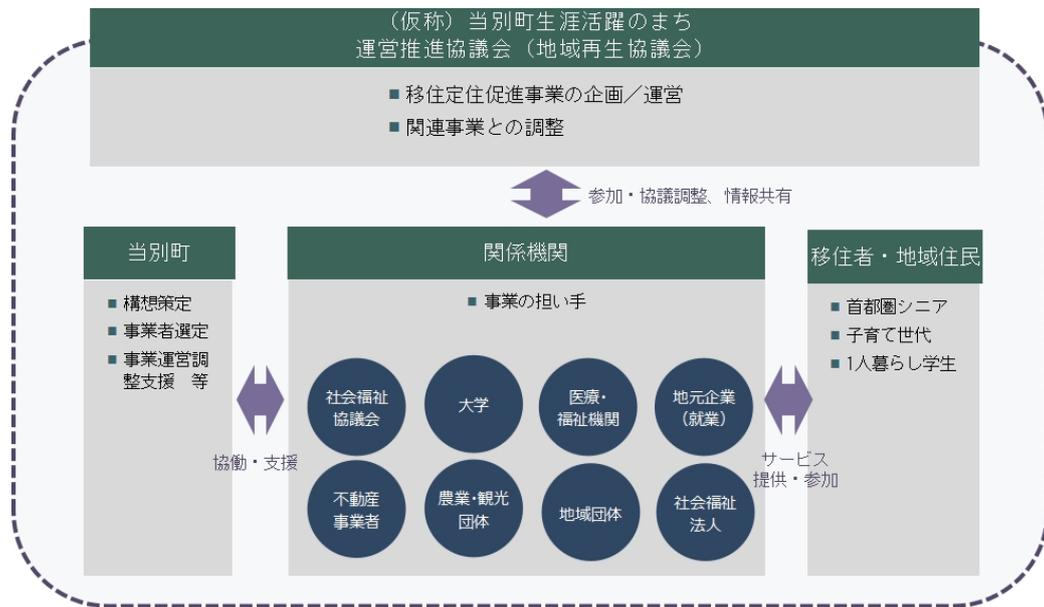
アクションプラン		平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)
町	基本構想の策定 (本業務)	←→					
	基本計画の策定 (地域再生計画)		←→				
	法人の決定			←→			
事業者	事業計画の策定			←→			
	設計期間				←→		
	建設期間					←→	
町&事業者	移住者のリクルート				←→		
	運営開始						★

5.2 検討体制

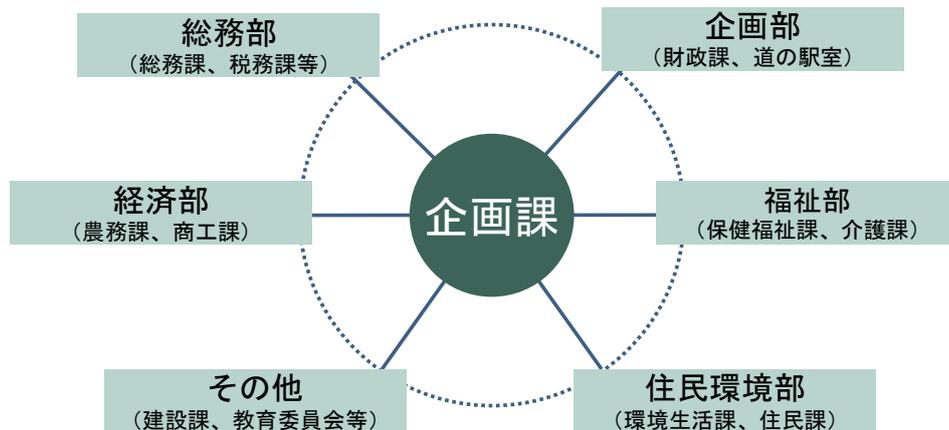
地域再生計画の立案などについて協議するため、運営推進協議会（地域再生協議会）を組織する。運営推進協議会は、図表 5- 2 のとおり、各関係機関に対して、協議の調整や情報の共有を行う。

当別町の体制は、図表 5- 3 のとおり、当別町企画課が中心となり、関係機関や庁内各課と連携して運営し、各事業者と協議しながら、「当別町生涯活躍のまち形成事業計画」を検討していく。医療・介護・雇用・住宅・まちづくり、不動産、産業、生涯学習等多岐にわたる政策を一気通貫で横断的に考慮する必要がある。そのため、全庁横断のプロジェクトチームを設立するのが望ましい。

図表 5- 2 運営推進体制



図表 5- 3 庁内検討体制



5.3 「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けた「町の関与のあり方」

「当別町生涯活躍のまち」の実現に向けて、町の関与のあり方について検討する必要がある。主に以下の視点が考えられる。

移住者獲得に向けて、町と事業者（地域再生推進法人として指定をされた者）が適切な役割分担を行い、マーケティング活動を実施することが求められる。具体的には、町は、これまでの町の移住施策を発展的に見直し、事業者と協力して、東京、札幌市において、アクティブシニアに対し町の豊富な地域資源をPRする営業活動を行う。特に、当別町の知名度が首都圏では馴染みが薄い可能性が伺えたため、様々な媒体を活用し町をPRすることが期待される。

また、移住者と地元住民との交流、地元住民の参加の仕組みなど、移住者受入に係る環境整備を積極的に行う。例えば、「生涯活躍のまち」に関する町民向けのセミナーを隔年で開催することや、移住者と地域住民との交流を図るイベント（当別・レクサンド都市交流協会の夏至祭に類似するイベント）を定期的に実施するなどの取り組みが考えられる。

地方創生に係る国の交付金が活用できる場合には、町は事業者の要望を受け、当別町生涯活躍のまちのソフト・ハード事業に活用していく。

エリア型開発が想定される石狩太美駅周辺では、地権者との調整やまちづくりに関する合意形成の進め方が重要であり、この点で町が主導をする。また、太美地区の市街地再整備における方向性の明確化、利便性を高めるバス運行の見直しやデマンドタクシーのあり方の検討、道の駅との連携の推進等を、町と事業者の適切な役割分担のもとに実施していく必要がある。

ふれあいバスについては、道の駅の開業に伴い、また太美地区における地域公共交通の整備としてスウェーデンヒルズから太美市街地及びJR石狩太美駅を経由し、道の駅までつながる「（仮称）西当別道の駅線」の運行を行うことで公共交通の充実を図る。

(用語解説)

○地域包括ケアシステム

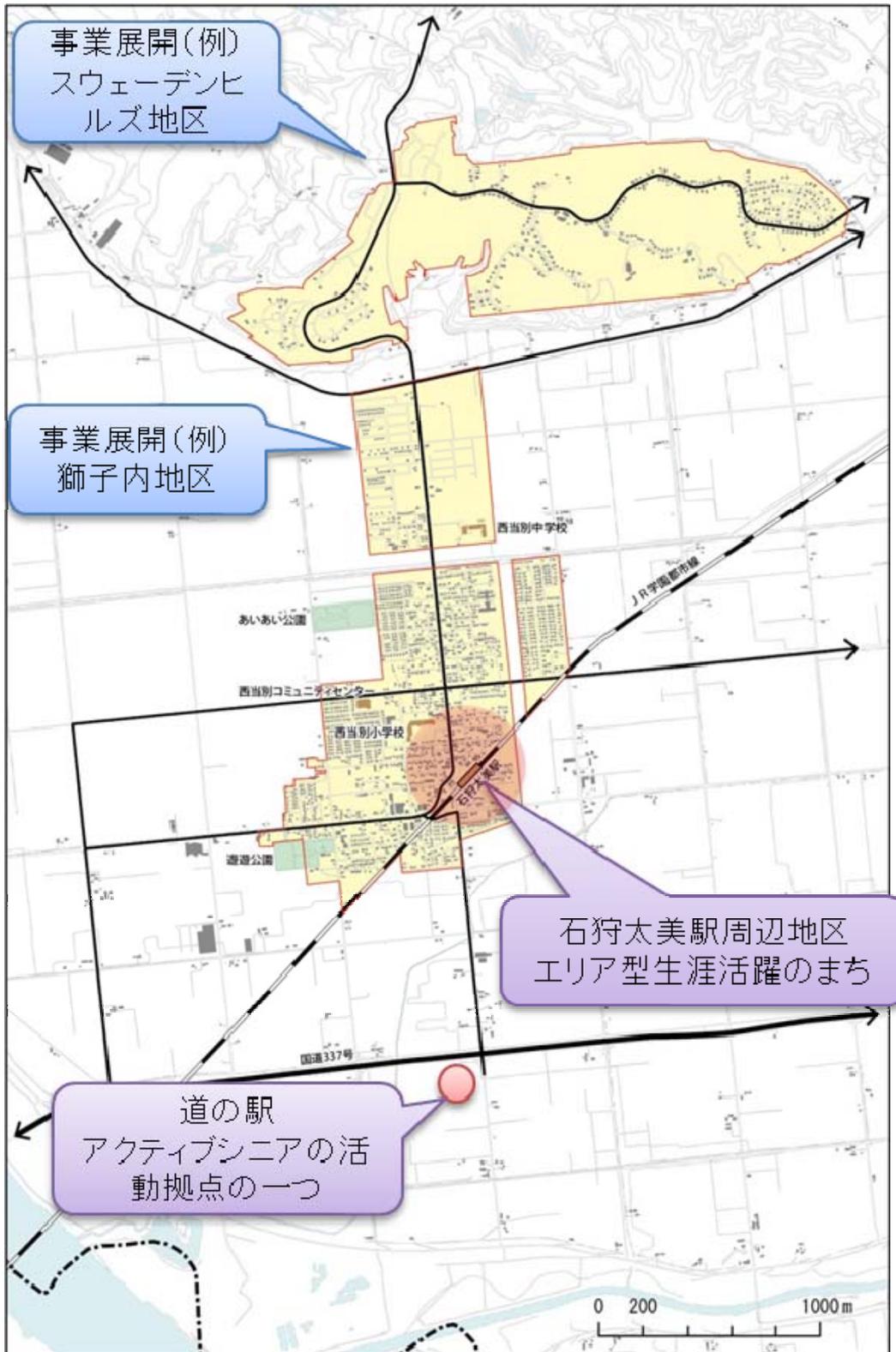
住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステム

○サービス付き高齢者向け住宅

高齢者住まい法の基準により登録される、介護・医療と連携し、高齢者の安心を支えるサービスを提供する、バリアフリー構造の住宅

(参考図)

図表 5- 4 太美地区内の位置関係図



(参考資料)

1. 当別町の概要

(1) 立地環境

当別町は、北海道の中心「札幌圏」に位置し、札幌中心部からは車で 40 分にてアクセス可能となっている。

図表 5- 5 立地環境

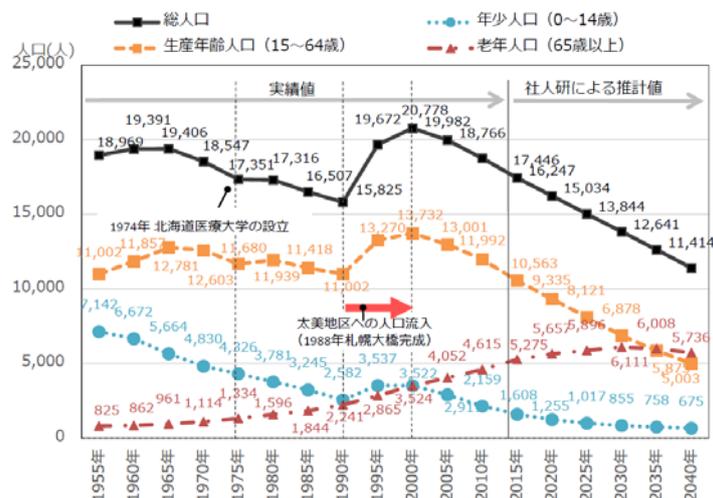


出所：町資料より作成

(2) 人口推移

当別町の人口推移をみると、1999年（平成11年）には20,000人を超えたが、宅地開発が終息すると減少に転じ、平成27年10月時点での人口は17,278人となっている（平成27年国勢調査）。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、今後も人口減少が進み、平成47年には生産年齢人口を老年人口が上回ると予測されており、今後とも一層の人口減少、高齢化が進むことが想定される。

図表 5- 6 年齢3区分別総人口の推移と将来推計



出所：当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成25年3月推計）」）

(3)当別町の地域包括ケアシステムの先進的な取り組み

「地域共生型拠点を活用した、あらゆる住民の担い手創出事業」として、地域包括ケアシステムを進化させ、地域共生型社会の実現に取り組んでいる。

- ・共生型地域オープンサロン
障がい者の就労拠点（喫茶店）、高齢者の介護ボランティア、子どもたちの学び・遊ぶ場
- ・共生型地域福祉ターミナル
総合ボランティア拠点、インフォーマルサービスのワンストップ拠点、地域の日常的世代間交流スペース
- ・共生型コミュニティー農園
障がい者の就労拠点（レストラン）、高齢者の就労拠点（農業）、男性団塊世代などの多世代交流拠点

図表 5- 7 地域共生のイメージ



◎特技を生かした社会貢献

- 高齢者と子どもが囲碁を通じて心を通わす
- 子どもも高齢者の生きがいを高めて活躍



◎認知症高齢者の活躍

- 要介護の認知症高齢者が農業経験を発揮
- 地元農家による監修（農福連携）



◎子育て支援

- 育児支援を受けたい方と育児の手助けができる地域住民が会員組織を結成
- 地域互助で育児を支え合い



◎団塊世代の活躍

- 団塊世代の高齢者が若い世代を巻き込んだイベントを企画しリタイア後の人生活力に
- 畑やレストランを利用したパーティで地域活力の向上

出所：厚生労働省「地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現」平成 28 年 7 月 15 日 資料

2. 首都圏インターネットアンケート調査

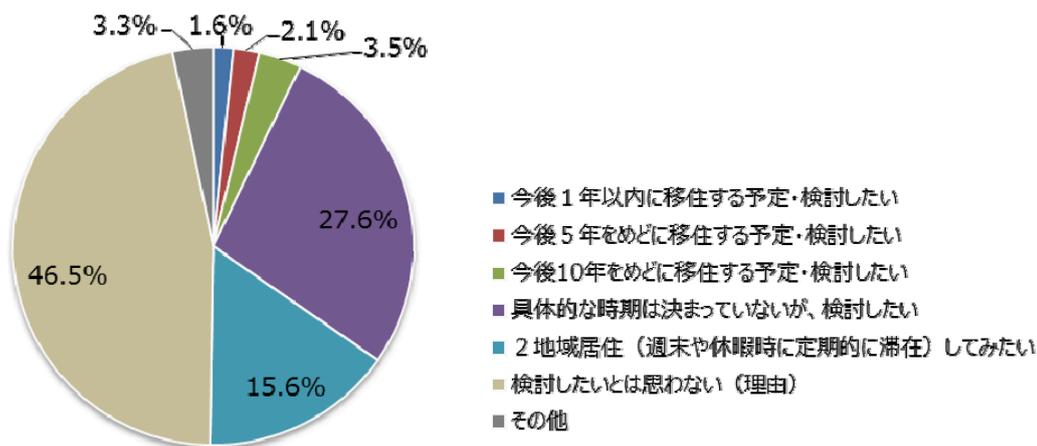
首都圏のアクティブシニアの当別町への移住意向と条件、潜在ニーズを把握するためにインターネット調査を行った。

- 対象：首都圏居住者（1都3県）の40～69歳代、男女2,000人
- 実施期間：平成28年8月26日（金）～平成28年8月30日（火）
- 調査実施機関：大手インターネット調査会社

- ◆ **当別町CCRCが実現した場合、全回答者2,000人のうち34.8%もの人が移住を検討したいと考えている。**
- ◆ これは、CCRCを想定しない前提での設問「現在、あなたは地方への居住について（2地域居住を含む）どのようにお考えですか。」に対する回答と比較した場合、**移住を検討したいと考える人の割合は高くなる結果。**
- ◆ 特に、「**2地域居住してみたい**」の回答者が**15.6%存在**することも特徴的である。

問 当別町に生涯活躍のまち（日本版CCRC）が実現した場合、移住してみたいと思いますか。（単回答）

図表 5- 8 当別町 CCRC への移住意向（回答者数：2,000名）



当別町生涯活躍のまちづくり基本構想検討協議会 構成員

	団体・企業名等	役職	氏名
1	北海道開発局札幌開発建設部 都市圏道路計画課	課長	宮崎 貴雄
2	北海道石狩振興局地域創生部	部長	田辺 きよみ
3	北海道空知総合振興局 札幌建設管理部当別出張所	所長	野田 昌孝
4	北海道医療大学	副学長	黒澤 隆夫
5	当別町商工会	理事	新森 道博
6	北石狩農業協同組合	専務理事	且見 英和
7	北海道旅客鉄道(株) 石狩当別駅	駅長	横関 章
8	(有)下段モータース	社長	下段 聡
9	スウェーデンハウス(株) スウェーデンヒルズ管理センター	センター長	仮屋 雄二
10	西当別連絡協議会	会長	佐藤 友彦
11	社会福祉法人ゆうゆう	事務局長	鹿毛 伊織
12	(株)らくらホールディングス	代表取締役	浅沼 静華
13	(株)北海道銀行 当別支店	支店長	田口 哲哉
14	万葉倶楽部(株) 北海道 ふとみ銘泉 万葉の湯 ふとみ館	支配人	前田 成弘

(平成 29 年 3 月 現在)

当別町生涯活躍のまちづくり基本構想

平成 29 年 5 月

編集・発行 当別町企画部企画課

〒061-0292

石狩郡当別町白樺町 58 番地 9

TEL : 0133-23-3198

FAX : 0133-23-3206